

二〇一九年四月五日

釣堀の水面を埋む花筏
宮の池雅楽に和するごと落花
梯子かけ児も御足撫ぶお身拭ひ
それぞれに良き名を貰ひ牡丹咲く
初瀬川花の三輪山映しけり

せいじ
そうけい
なつき
よし女
明日香

二〇一九年四月四日

春雷や闇に稜線浮かびけり
薬師堂薨に散らす落花かな
遠足の子らに覗かれスケッチす

素 秀
ぽんこ
さつき

二〇一九年四月三日

展望台一気に占むる遠足子
花吹雪浴びつつ札所詣でかな

さつき
さつき

二〇一九年四月二日

新元号決まり落ち着く四月かな
チューリップのぞき込む子の口とがる
天守なき堀へ降り敷く花吹雪
庭石を持ち上ぐるやに草青む
ランタンを囲み車座花筵

董 雨
なつき
智恵子
菜 々
さつき

二〇一九年四月一日

元号の令和と変はり桜咲く
満開の花の中なる駐在所
花見舟岸で手を振る異国人
花筵ここよと両手振りにけり

はく子
やよい
さつき
さつき

二〇一九年三月三十一日

迂回路に小さき公園花盛り
花人を吐き出すバスやお堀端
仰ぎつつ行きては戻る花の道

なつき
やよい
菜 々

二〇一九年三月三〇日

由緒ある苑の要の大桜
磯の香の通ふ岬の菜花畑
おひさまに向きて整列鼓草
大道芸大技決まる花の下
花冷や姉を見舞うて帰る道

たか子
智恵子
やよい
さつき
菜 々

毎日句会みのる選・二〇一九年四月七日